

氏名	重久守雄
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第324号
学位授与の日付	昭和43年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	<b>Studies on the Relation between Heme and Nucleic Acid Synthesis in Erythroid Cell.</b> 赤芽球におけるヘム合成と核酸合成との相関関係についての研究 I. 貧血ラットにアミノプテリン又はプロモウラシルを投与した場合の骨髓の形態学的変化及びヘモグロビン代謝の変化について II. 貧血ラットにアミノプラテン又はプロモウラシルを投与した場合の核酸代謝について III. 骨髓内赤芽球の核小体について
論文審査委員	教授 妹尾左知丸    教授 平木 潔    教授 小川勝士

### 学位論文内容の要旨

赤芽球の分化を調べる目的にて、貧血鼠にアミノプテリン (AP) 及びプロモウラシル (BU) を *in vivo* に投与してその変化を色々検討した。

AP 投与にて好塩基性赤芽球の減少、多染性赤芽球の大型化、細胞分裂の抑制、細胞当りの Hb 量の減少、DNA 量の減少、<sup>3</sup>Hチミチンの Labeling index の低下をみた。BU 投与では好塩基性赤芽球の増加、多染性赤芽球の減少、Hb 量の減少、DNA 量のむしろ増加をみた。

このことにより細胞の分化は DNA 合成の低下に関係していると考えられる。

核小体は後期好塩基性赤芽球で完全に消失し、この時期において r-RNA 合成も終了すると考えられる。プロモウラシル投与の場合は核小体の消失がおくれる。

第 I 報は Acta Med. Okayama 22巻 5号1968

第 II 報は Acta Med. Okayama 22巻 6号1968

第 III 報は Acta Med. Okayama 23巻 1号1969

に発表する。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は赤血球系細胞に於けるヘムと核酸合成との関係を研究したものであるが、従来想像されていた両者間の逆相関々係を赤芽球系に於て明確に指摘したもので価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。